

今週のメニュー

[トピックス](#)

塩ビのサステナビリティが議論 - Vinyl India 2011 -

[随想](#)

同じ話、自慢話、お説教（連載46）

金沢工業大学大学院・東京大学大学院 上野 潔

[編集後記](#)

トピックス

塩ビのサステナビリティが議論 - Vinyl India 2011 -

去る4月上旬インドのムンバイにおいて、Chemicals & Petrochemicals Manufacturers Association (CPMA) の主催で“Vinyl India 2011”と題する塩ビと塩素に関する国際会議が開催されました。ちなみに、今年のアジア石化会議 (APIC) は先週、石油化学工業会主催で福岡にて開催されたばかりですが、CPMA は去年の APIC の主催団体です。



アジア太平洋地域の塩ビ業界の情報交換の場として組織された、塩ビ・塩素産業界ネットワークである APVN も、この Vinyl India 2011 に全面協力し、APVN の代表理事・事務総長として塩ビ工業・環境協会海外 WGL の堀氏が講演を行いました。

主催者側の発表によると、塩ビの関連企業からはもちろんのこと塩ビのユーザー業界や政府関係者など 1000 人近い参加者があったとのことでした。堀海外 WGL によれば、「ムンバイで初めての塩ビ・塩素に関する国際会議に対するインド国内での関心の高さに驚きを感じた」とのことでした。また、塩ビのサステナビリティに関し、インド National Chemical Laboratory のフェローから、明確なコメントが披露されました。氏からは、「塩ビは、廃棄される際の処理や軟質塩ビに使用される可塑剤について批判にさらされていることは確かであるが、塩ビなしで我々の生活は成り立つであろうか？ 答は明らかに「否」である。塩ビの広範囲の製品は、生活に深く入り込んでおり、サステナブルな素材として評価できる。更なるサステナビリティを獲得するためには、特にインドにおいては、塩ビの約半分を占める塩素のコストの問題や、その塩素の安全輸送の取組、あるいは塩ビのリサイクル産業が組織されていないなどが改善されることが重要である。」という内容の基調講演が行われ、塩ビに対する冷静な分析は大変印象深かったとのことでした。

この会議が画期的であったのは、こうして最初に提示された塩ビのサステナビリティへの課題に対して、その解決策を示唆する講演が同時に行われたことです。例えば、原料生産の安全性確保に対するクロルアルカリ業界の取組、可塑剤・安定剤の安全性についての塩ビの添加剤メーカーからの最新の加工技術や添加剤の開発状況が紹介されました。また、リサイクルに関して、堀海外 WGL が日本のリサイクルの技術などを紹介し、塩ビのサステナビリティ向上のための課題とその取り組みが公に議論されました。

ある調査会社の発表によれば、発展途上国では低い経済成長が続く中、労働生産性はインド5.4%、中国8.7%とアジアが世界の経済発展を牽引し続けているとしています。塩ビについても、世界の塩ビ生産能力は46百万トン、需要が34.5百万トンと増大が続いている中、昨年インド国内の需要は約1.9百万トン、成長率は世界平均の2倍であり、今後も成長率10.2%と期待されるとしています。一方、持続可能な将来に向けて、塩ビパイプに関するLCA調査や施工マニュアルに関する教育の強化、グリーンビルディングへの塩ビ製品の売り込みが必要であるとしています。

このインドでの国際会議は、塩ビのサステナビリティを公に議論し、その可能性を広く社会に発信していく上で非常に先進的な取り組みであり、今後もこうした議論が世界中で行われるようになることを予感させるものでした。(了)

随想

同じ話、自慢話、お説教(連載46)

金沢工業大学大学院・東京大学大学院 上野 潔

10年以上前のことですが、「同じ話をする、自慢話をする、お説教をする、どれかひとつでも思い当たるとボケが始まった証拠ですよ」と言われました。当時は私も若かったので全く同感でした。その話を大学の先生にしたら、「それって大学の教師は殆どがボケてるという意味だね」といわれて、思わずわが身を振り返りました。確かに大学の先生からこの三つを取ったら商売ができなくなりますね。

古典落語や講談は粗筋や結末がわかっているのに、名人が演じると何度聞いても飽きません。オペラや演劇も同じ所で泣き、笑い、感動します。しかし、講演や講義ではそうは行きません。人の話を聞いて面白いのは、「自分の知らないことを初めて聞くとき、知っている事でも新しい解釈が入るとき」です。本当に一流の人は、難しいことをやさしく判り易く話し、感銘を与えてくれます。

最近では大学でも企業人に非常勤講師を依頼することが多いようですが、それは企業の生々しい開発競争や失敗の経験談を、学生に直接聞かせたいという先生方の希望だと思います。

しかし残念ながら企業人の話は、会社の宣伝や自慢話が多くて結果として面白くないことが多い気がします。本当に聞きたいのは個人の苦労話や失敗事例、そして将来計画の立案過程等なのですがそんな話はほとんど聞けません。講演に使われる資料も、会社のロゴ入りのパワーポイントで、殆どがカタログやWebで公開されたものばかりです。同業他社が聞いている可能性があるし、厳しい社内規定もあるので、それも当然かもしれません。

役人の場合は、仕事以外では趣味も多彩で、魅力ある人が多いのですが、講演や挨拶になると定型的な話ばかりでちっとも面白くありません。失敗話はありませんし、現在進行中のことや未来のことは、責任がとれないので話してもらえません。大局的な話題は、所属する部署の権限を越えていることが多いからそれも話せません。必然的に、既に決まった最近の法令や、公表された実績データの解説が中心になってしまうのです。「皆様のご健勝と、この会が有意義であることを祈念します」なども、締めくくりの定番です。

大学の先生の話はまさに玉石混交です。最近、学生側からの評価もされるので、講義の面白い先生が増えたといわれています。

先日ある大学の先生から講義と講演の違いを教わりました。「講演は聴いた人が面白ければそれで良い。講義は少なくとも内容の60%は学生に理解してもらう必要がある。学生の反応を見て、話を繰り返したり、こちらから質問したりすることも重要です」「パワーポイントも1コマ(90分)ならせいぜい多くて20枚程度。なるべくボードを使用して要点を書きます。そうしないと学生の思考が講義に追いつかないし、集中力が途切れるのです」なるほど。なるほど！やはり大学の先生の講義の基本は教育なのです。

大学の講義は時事解説ではありませんから、いつも最新のことを話すわけではありません。普遍的なことや過去の定説を説明することは重要です。同じことを繰り返して話す部分も多くなります。

講演の場合は聴衆に最新の情報を提供し、解説や対応策を話すことが第一の目的になりますから、最新の事例紹介が必要でしょう。海外の動向も重要です。そして何よりも聴衆に喜んでもらわなければいけません。同じ話は禁物です。だから聴衆の顔ぶれをみることや、受講者名簿は講師にとって重要です。演台から顔見知りを見つけるとドキッとします。

自分に酔わず、相手を酔わすのが一流の芸術家です。自慢話は、カラオケと同じで自分だけが気持ちよく、聞かされる相手はちっとも感動しないのです。会社の幹部が部下に講話する時も同じです。社内なら我慢して聞いていますが、外部で幹部が講演するのを聞くと本当に、はらはらします。さりげなく、わからないように自慢するのが一番難しいのです。

お説教は多くの場合、自分が出来なかったことを後輩に強いるか、出来たことの自慢話かどちらかです。本当に後輩にしてほしいことは、お説教では無く自分の過去の業績を見せればすむことなのです。ここが自慢話と紙一重で難しいのです。もっとも最近、教師や師匠の背中を見て育つような若い人が少なくなって、コンコンと具体的にお説教しないと判らないのだという人もいますが。

重要な判断を要する会議では、有識者と言われる人の発言が重視されます。そんな中で、「私はその分野は素人なので判りませんが」と言いながら見当違いの昔話をする人を見かけるとびっくりします。高名な学者がいつも正しい判断が出来るとは限りません。そもそも昔の業績だけが頼りで、最新の論文、論説、著書が殆ど無い人を有識者と呼ぶことがおかしいのです。

有識者といわれる人は過去に偉大な業績があり、最先端の内容でも理解できる能力があるはずなのです。知識は古くなくても若い人を感動させる見識を期待するのです。

私の場合、自慢話はしていないつもりですが、同じ話とお説教が多くなったような気がします。そろそろ引退しなくては。(了)

前回の「ひとつ屋根の下」(連載45)は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/312/mag_312.pdf

編集後記

先週 5 月 2 4 日に第 1 4 回 VEC 通常総会も滞りなく終わりました。その翌日に炭鉱記録画家山本作兵衛 (1 8 9 2 ~ 1 9 8 4) の絵画が国内初の「世界記憶遺産」との記事が目につきました。これは、福岡県・筑豊の炭坑労働の様子などを独特の手法で表現した「筑豊炭坑画」との事です。世界記憶遺産とは、政府申請に限る世界遺産とは違い、自治体や個人でも申請可能で、その真正性や希少性などをユネスコが審査して隔年で選ぶそうです。過去には、フランス人権宣言 (1 7 8 9 年) やベートーベン第 9 交響曲の草稿 (1 8 2 4 年) などが登録されているようです。

メルマガ編集委員となって早 2 年とはなりましたが、国内生産開始 7 0 年もの歴史のある塩ビ業界で後世へ記憶に残る様な活動を続け、メルマガとして残して行きたいものです。
(薩弘)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp
